

意見異見 私見



山元 眞

今から約二千年前にイエスという人がいた。その人は、「神が私たちの想像をはるかに超えて人を愛している」ことを伝えようとした。弱い立場に置かれていた人々から排斥され、差別されている人々。悩み、苦しむ人々。そのような人たちにイエスは自ら近づき、共に苦しんでくれた。最後は血みどろになって、汚れて、臭くて、目も背けなくなるほどじりめな姿で死んでいった。

（それがどうした...。それが、私と何の関係があるのか...。）クリスマス。それは、キリストの誕生を

祝う日。イエス・キリストの誕生の話は、分厚い聖書の中のごく一部に書かれている。マタイとルカによる福音書である。この福音書という書き物は私たちが思っているような「伝記」ではない。イエスの誕生から時間を追ってその死までをつぶさに記録したものでない。それは、十字架の上での死を見、その死んだ者がまだ生きている、という体験をされた者が命をかけて伝えた「救いのメッセージ」なのである。

イエスの誕生の物語は、イエスの死を鏡のように当てて見ることで初めて理解できる。苦しい旅の後、ゆっくり休む宿もなく、マリヤは家畜小屋で赤ん坊を産む。生まれたばかりの赤児は布にくるま

り休む宿もなく、マリヤは家畜小屋で赤ん坊を産む。生まれたばかりの赤児は布にくるま

れて飼ひ葉桶（おけ）に寝かされる。飼ひ葉桶は家畜の餌を入れる箱。この子は後にその生涯を閉じる前の晩、弟子たちと最後の別れの食事をし、その場でパンとぶどう酒を自分自身とし、弟子たちに分け与える。そして、それを記念として繰り返すことを弟子たちに望まれた（それがミサである）。神が人間の餌となった。食べられ

るものとなった。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つのことばで生きる」とは生前のキリストのことばである。

華やかなクリスマス

困。差別。孤独。それは他人事ではない。ま

い。この繁栄のように見える現実の真裏に悲しみと死がある。

クリスマスケーキ、クリスマスブレゼント、クリスマスソング、クリスマスツリー、サンタクロース、クリスマスラフ。華やかさがクリスマスではない。その真裏にある現実がクリスマスなのである。神の子は、そこに誕生した。そして今日、そして今、神の子は悩み苦しむ私たちの中で生まれ、これからも生まれ続ける。そのことを

今、この時に死んでいく子どもがいる。今、この時に殺されていく人がいる。そこ

から目を背けてはいけません。

華やかさの陰で

クリスマスケーキ、クリスマスブレゼント、クリスマスソング、クリスマスツリー、サンタクロース、クリスマスラフ。華やかさがクリスマスではない。その真裏にある現実がクリスマスなのである。神の子は、そこに誕生した。そして今日、そして今、神の子は悩み苦しむ私たちの中で生まれ、これからも生まれ続ける。そのことを

本欄への投稿は千二百字以内で、顔写真を添え、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、Eメール、所属教会を明記し、編集部まで。信仰、社会問題、教会の取り組みなど、論理的な見解をお寄せください。用語その他で添削することもあります。原稿はお返ししません。採用可否の理由はお知らせしません。